

TOKYO INTERNATIONAL FILM FESTIVAL 2021

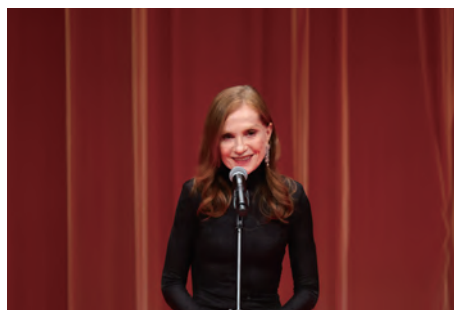
第34回東京国際映画祭 開幕！！
オープニングセレモニー レポート



開催期間：2021年10月30日(土)～11月8日(月)
会場：日比谷・有楽町・銀座地区 公式サイト：www.tiff-jp.net

- 開催日：2021年10月30日(土)
- 会場：東京国際フォーラム ホールC (東京都千代田区丸の内3丁目5番1号)
- ①レッドカーペット 開始時間：16:30～
- ②オープニングセレモニー 開始時間：18:00～
- 【オープニングセレモニー】登壇者
- 第34回東京国際映画祭チエスマン：
安藤裕康
- 第34回東京国際映画祭フェスティバル・アンバサダー：橋本愛
- コンペティション部門国際審査委員 審査委員長：イザベル・ユペール
- 審査委員：青山真治、クリス・フジワラ、ローナ・ティー、世武裕子
- ゲスト：フレデリック・ボワイエ、カルロ・シャトリアン、クリスチャン・ジュヌヌ
- レッドカーペット参加ゲスト国内外42名 長さ 計45m
- 本年度の上映本数 計126本

10月30日(土)より、第34回東京国際映画祭が開催！昨年は新型コロナウイルスの影響で海外からのゲストの来日が叶わなかったが、バブル方式など徹底した感染症拡大防止対策の下、フランスを代表す



フランスを代表する大女優であり今年の審査委員長を務めるイザベル・ユペール氏 ©2021 TIFF

る大女優であり今年の審査委員長を務めるイザベル・ユペールほか海外からのゲストの招聘も行い、東京国際フォーラムホールCのロビーにてレッドカーペットアライバルを実施された。

『ちょっと、思い出しただけ』より池松



オープニングアクトは、和奏女子楽団ウーマンオーケストラ ©2021 TIFF

壮亮と伊藤沙莉、『GENSAN PUNCH 義足のボクサー(仮)』より尚玄や南果歩ら、『フラ・フラダンス』より美山加恋、そして『グッバイ、ドン・グリーズ！』より声優の梶裕貴ら、総勢42名のキャストのみならずスタッフまで多くの映画人で構成された豪華なゲストが華やかな姿で登場し映画祭を彩った。

続いて行われたオープニングセレモニーでも、映画の祭典の幕開けを祝福する豪華な演出が続々。

まずオープニングアクトに登場したのは、和奏女子楽団ウーマンオーケストラ。約5分間にわたるミュージカル映画音楽のメドレーを生演奏し会場を盛り上げた。



『ちょっと、思い出しただけ』より池松壮亮氏と伊藤沙莉氏 ©2021 TIFF



司会進行は、アナウンサーの中井美穂氏 ©2021 TIFF



『GENSAN PUNCH 義足のボクサー(仮)』より尚玄氏や南果歩氏。 ©2021 TIFF



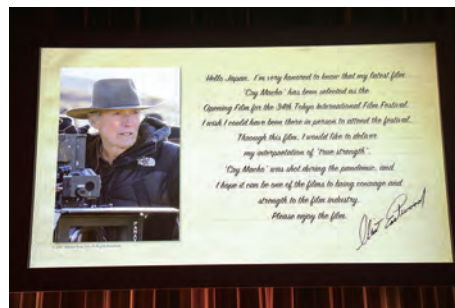
Amazon_Prime_Video_ テイクワン賞審査委員 元駐日マケドニア大使で映画監督のアンドリアナ・ツベトコビッチ氏、審査委員長の行定監督、女優の渡辺真起子氏。 ©2021 TIFF



第34回東京国際映画祭フェスティバル チェアマンの安藤裕康氏 ©2021 TIFF



フェスティバル・アンバサダーを務める橋本愛氏 ©2021 TIFF



監督・主演を務めたクリント・イーストウッド氏よりの手紙 ©2021 TIFF



岸田文雄内閣総理大臣よりビデオメッセージ ©2021 TIFF

続いて登場したのは、映画祭の顔であるチェアマンの安藤裕康。「昨年に続き、今年も映画祭を開催できるか最後までヤキモキしましたが、本日こうして沢山のお客様をお迎えて無事開会にこぎつけることができ、感無量です。そんな困難の中でも、会場を17年ぶりに六本木から日比谷・有楽町・銀座地区に移転できたのは、官民の多くの方々の協力のおかげだと感謝しております。加えて、新しいプログラミング・ディレクターの市山尚三氏に各部門の再編と作品の質の向上に尽力していただきました。新約聖書の中に「新しき酒は新しき皮袋に盛れ」という言葉がありますが、まさに会場とそこに盛る作品を一新した今回の映画祭、これからの10日間が、国境を越えて、映画を愛するすべての人々の学びと共感の場となることを願いつつ、ここに第34回東京国際映画祭の開幕を宣言いたします」と、大幅に生まれ変わった新たな門出に触れながら開催決定への熱い想いと願いを明かし、開幕を宣言しました。

つい1か月前に内閣総理大臣に就任した岸田文雄総理よりビデオメッセージが到着。「新型コロナウイルスとの闘いが依然として続く中、今回のようなリアルとオンラインを織り交ぜた、新しい形での映画祭の開催を実現されたことは、皆様の創意工夫と御尽力のたまものと存じます。映画などの

コンテンツは、人間の創造力の結晶であり、我が国のソフトパワーの源泉です。東京国際映画祭は、我が国の文化や優れたコンテンツの魅力を世界中の人々に知っていただく、大変重要な機会です。今回の映画祭によって、我が国の映画やアニメの持つ魅力が、一人でも多くの人々に届くことを期待しております」と映画祭開幕を祝うメッセージが寄せられた。

フェスティバル・アンバサダーを務める橋本愛もラインナップ記者会見に引き続き祝福に駆け付けた。「コロナ以前はレッドカーペットの周りにお客様がいらして、年に一度、稀にある皆さんと交流できる楽しいイベントだったので、今年は熱気を感じるような空気ではないにしても、こういう状況で映画祭が開かれたんだということの有難みを感じています」とコロナ禍での開催となった今年の映画祭への思いを語った。「越境」という映画祭テーマに関しては「性別の違いや、世界各国、文化の違いといった様々な違いを認め合いながら、歩み寄るにはどうしたらいいかというのを、お互いに誠実に考え合うのが人との繋がりの中で大事だなと思っている」と語り、「そういった意識や、心、感性を育むことが映画の持つ大きな役割だと思う」と「映画祭の顔」らしく堂々と「越境」というテーマ、そして映画の持つ役割をアピール。最後に、「東京の名画座やミニシアターに足を運ぶとよく思うのが、映画館ごとのカラーや雰囲気、が全然違って、座席やどんな映画を上映するのかというセレクトなど、その映画館にしかない魅力があって、その場所のその映画館にしかないという特別感が私は大好きです」と日本の映画館の魅力を世界に発信した。

今年の審査委員が紹介され、セレモニー

の締めとなる、コンペティション部門の審査委員長であるイザベル・ユペールの挨拶では、「こんばんは」と日本語であいさつ。日本の観客に向けて笑顔を見せた。「このようなコロナ禍において映画作りをするのはチャレンジです。そしてこうした映画祭を開催されたということは勝利だと思います。ここに他の審査員と共に立ててとても光栄に思います。私たちは一緒に映画を観たい。それが、コロナ禍において私が一番やりたかったことです。今回、コンペティションのセレクションを見ると、素晴らしいセレクションだと思います。私たちには映画が必要です。そして映画は私たちを必要としています」と力強く映画祭へとエールを送った。

第34回東京国際映画祭のオープニング作品に選出された『クライ・マッチョ』をめぐっては、過去の出演作の名場面や作品のメイキング映像とともに、スティーヴン・スピルバーグをはじめとする制作陣や、メル・ギブソン、ヒラリー・スワンクから映画界のレジェンド クリント・イーストウッドを称える特別映像が映し出された。

さらに、監督・主演を務めたクリント・イーストウッドより手紙が届き「日本の皆さんへ。最新作『クライ・マッチョ』が、第34回東京国際映画祭オープニング作品に選ばれたことをとても光栄に思います。本当にオープニングセレモニーに参加したかったです。この映画を通して、私が信じる“本当の強さ”を感じてもらえると嬉しいです。『クライ・マッチョ』はコロナ禍に撮影されたものです。私は本作が映画業界に、勇気と強さをもたらす作品の一つになればと思っています。どうぞ楽しんでご覧ください」とメッセージが読み上げられた。